

# カトリック六甲教会 教会報

2012  
10  
No.490

## 「思い込み」



主任司祭 松村 信也

15年ぶりに懐かしい北アイルランド（第三修練）に行ってきました。北も南も15年前に比べると随分良くなっていました。それは治安が良くなったことありますが、町全体が綺麗になったこと、古い建物がリホームされ町全体が明るくなっていたことです。さらに道路の整備と自動車道の充実は、目を疑うばかりでした。古い建物と言えば、当然、教会の建物になりますが、外装もさることながら内装まで完全に修復されていました。新装され躍動する国アイルランドと言いたいのですが、現実には深刻な経済不況であり「信じられない？」そんな印象を受けました。

久しぶりに“フィッシュ&チップス”を食べに行こうということになり、かつて行ったことのある美味しいレストランを探しました。やっとそれらしきレストランに着いたのですが、どうも昔の店と様子が違っていました。注文したフィッシュ&チップスも美味しくなく、店の雰囲気も落ち着きませんでした。友人は、「ここですか？」と疑い深い顔、また食べたあと「美味しくない」と一言…。15年前は、とても美味しかったのに、ここにも経済不況の影響の波か？実は、フィッシュ&チップスの美味しいレストランは、町の中ではなく海沿いの小さなレストランでした。ところが“店は町の中”と思い込んでいた愚かな小さなメモリー・スパン。自分勝手な思い込みから間違えて記憶したことが、他人からの意見を聞こうとしなかった。その結果、美味しいフィッシュ&チップスにありつけなかっただけでなく、友との口論まで引き起こす結果となったことです。そうしたことは“霊操の旅”の間、しばしば起こりました。

“思い込み・先入観”がもたらす結果は、混乱、闘争、苦悩、羞恥、頑固そのものです。幾度もそれらを繰り返しながらも頑な心は、素直になること、謙遜に己の間違いを是正することを拒み続けました。しかし、事実を曲げることはできないのです。そして、間違い、思い込みであったことに直面させられるとき、己の愚かさが露にされるのです。そのとき初めて素直になれるというよりも、恥辱のあまり謙遜にならざるを得ないのです。なんと愚かなことかと思いつつも、これが弱さ、人の愚かさというものに気づかされたのです。

聖書の中に『砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。』（マタイ7:26-27）とあります。またパウロは次のように言っています。『愚かで無知な議論を避けなさい。あなたも知っているとおりの、そのような議論は争いのもとになります。』（Ⅱテモテ2:23）と。まさにその言葉どおりのことが、現実には起こったのです。

人生も仕事も何でも自分に都合のいいことばかりありません。間違い、思い違いは誰にでもあると思います。しかし、そのことに気づいた時、頑な心にならないでその一つひとつを素直に、謙遜に是正できる柔軟な心、寛大な心を育みましょう。

キリストのうちに

## 忘れないで・東日本の被災地から(7) 若者たちの被災地支援

### 若者の成長のカギは意味と意義のある体験

昨年の中日本大震災以後、六甲学院では3回、近畿カトリック学校連盟宗教教育研究部会主催の企画では2回の計5回の被災地訪問に関わりましたが（そのうち4回を引率しました）、毎回、募集定員を大きく超える参加希望があり、選抜に苦労しました。「被災地に行き、何か手伝いたい」という意欲のある生徒たちが非常にたくさんいますし、またその背後には、「是非、行ってきなさい」と応援する保護者たちが多数おられるようです。

被災地を訪問した人たちは、出発前に事前の集いをして参加への覚悟を分かち合い、現地ですべての手伝いをし、現地の人たちに出会って交わりを体験し、帰ってきてから報告記を書き、報告会を行っています。行く前の動機を探り、行ってからも現地で語り合い、帰ってきてから振り返りを行い、考えたことや感じ取ったことを家族や友人知人たちと分かち合うという意味深い一連の流れがあります。海外援助活動などでも行われてきたあり方ですが、こうした現場体験が与える影響は非常に大きなものがあります。

スケールの大きな人間を育てるには、こうした「意味と意義のある現場体験」を積み重ねつつ、問題状況を知的にも理解し、長いプロセスとなる解決への道のりを受け止めるように育てていくことが大切です。現在この意味で大きな意義を持つ機会として「被災地訪問」は特別に意味深いものとなっています。

「何かお役に立てるのでしたら」との思いがあるだけで十分です。現地へ行き、被災地を見渡し、その凄さを実感して圧倒される体験、と同時に津波に負けずに立ち上がっていく人たちとの出会いは貴重です。行った先で出会った人たちとの分かち合いも深いものになります。それら一連の「実感したこと」がその人の中に気付きと変化をもたらすようです。いくら知識として知っていても人間は動き始めることはないのですが、直接に面と向かって出会い体験したことは「実感」としてその人を動かし始めるものです。

若い世代を本気で育てたいと考えているのであれば、彼らに意味のある体験、意義深い体験の機会をさまざまに、出来るだけ多く提供するようにすることが望ましいのです。私も六甲学院で32年間生徒たちのカトリック研究会を担当してきましたが、巡礼の意味をかみしめる津和野や長崎への巡礼、祈りの体験が確かに出来るようなしっかりとした黙想会、意義深い奉仕活動（長島愛生園などの真剣にならざるを得ない訪問）などによって人生への影響を受けた生徒たちがたくさんいました。少なくなった洗礼も、そうした意味深い体験を通して受洗を考え始めたというケースが多くあります。



若い世代を本気で大切にしたい教会であってほしいと望んでいます。意欲と信仰心のある若い人たちがすでにいます。彼らの活躍できる教会にしていられるかどうか、21世紀の教会の試金石はそこにあると思っています。イエズス会日本管区教会使徒職協働推進チームの委員としても、こうした方向を推進したいと考えています。

(吉村)

<行事報告>

### 聖書朗読リレー（8月25日）

六甲教会恒例「夏の聖書朗読リレー」に初めて参加しました。私は学生時代に陸上部に所属していたのですが、リレーという形式の興味深いところは、チームとして競技するものでありながら、各部分は完全に個人に任されているところです。しかしながら、それぞれの担当部分を個人の能力だけで走っているかというところではありません。不思議なことですが、「チームのために」という意識を持つことによって、同じ距離でも個人のレースのときより良いタイムで走ることができるのです。

神様は私たち一人一人とパーソナルな関係を結ばれますが、親交を深めていくには一人では難しいと感じることも少なくありません。今回、チーム六甲教会の一員としてみことばというバトンをつなぐことができ、大きな喜びを感じました。これからもみなさんに助けをいただきながら、信仰の道を歩んでいきたいと存じます。

このような機会を与えてくださった神様と養成部に感謝いたします。（中西）

六甲教会の夏の行事の最後を飾る、恒例の聖書朗読リレーに今年も参加させて頂きました。静かな小聖堂のご聖体の前で聖書を声に出して読む。少し早めに着席し聖書を開き聴き入る。その時は文字を目で追い、そのうち自分自身が読むのを待つ。聖書を声に出して読むのは、一人で黙読したり、また主日のミサで聖書朗読を聴くのと別な、そこに居る人々との祈りの時の思いが感じられるようになりました。共に祈る。その時声を出して読むのは一人だけども共に居て下さるイエス様との貴重な祈りの場となっています。自分の担当が終わりその後暫く祈りと共に朗読に耳を傾けて、今年も善い時を過ごさせて頂いたという感謝の思いで小聖堂を後に致しました。神に感謝…。

（井本）



<行事報告>

### 三日月会の総会（9月17日）

9月、「敬老の日」今年も90名近い人たちが午後1時のミサに集まりました。司式は一週間まえに2か月間の「サバティカル」から戻ってこられた松村主任司祭にお願いしました。例年のようにラテン語のグレゴリアン聖歌を歌いました。昔はよく歌われていたミサ曲ですから我々にはとても懐かしく、伝統を後世に守り伝えてゆくことの喜びと責任を感じました。

総会の始め松村神父にお土産話をさせて頂きました。7年に一度の「サバティカル」はイギリスからスタート、スペイン、オーストリア、アメリカ、といろいろな国でお友達やたくさんの方々からパワーを貰われ、また、ハワイでは警官に現地の人と間違われたというほど真黒に日焼けして元気にお帰りになりました。

三日月会には493名の方が登録されていますが、健康上の理由などで参加できない方が大勢いらっしゃいます。またこの一年で36名の方が新しく入会されました。その方々も含めて今後の活動をみんなで考えて行きたいと思えます。

続いての親睦会では「六甲混声合唱団」のみなさんが「青い山脈」「ゴンドラの歌」など懐かしい映画音楽をコーラスで盛り上げて下さいました。ありがとうございました。またこの日のために早くから準備をして下さったたくさんの方々にも心からお礼申し上げます。

デオ・グラツィアス！（三日月会会長 鈴木）

9月17日(月)敬老の日に、第33回三日月会総会に出席しました。

松村神父様司式による御ミサの後、神父様より「サバティカルを終えて」と題して講話があり、引続いて総会と懇親会が開催されました。

松村神父様の講話は、イギリス、アイルランド、スペイン、コスタ・ブランカ（地中海沿岸）、ハワイ、ダラス、と広範囲の話題が続き、旅好きの私には極めて興味深く、楽しいお話でした。懇親会の席でお聴きすると、ウィーン、ハンガリー、チェコ等にも脚を延ばされた由、行動範囲の広さに感服いたしました（地名を間違えていたらご免なさい）。旅行中の写真を見せて頂く機会を楽しみにしています。

総会では、松村神父様のご挨拶に続いて、鈴木会長より会員動向（総数493名）、これまでの集会動向（例会開催8回）、誕生祝カードが地区会のお世話で配布していること等の報告と会計報告が行われました。例会内容は、これまでにコリンズ神父の講話、片柳神父の講話、東日本大震災の被災地報告、介護保険の話、聖歌の練習、分かち合い等が行われていますが、今後の運営についてのご意見があれば会長宛に提案してほしいとのことです。

懇親会の席では、六甲混声合唱団の皆様が懐かしい歌をご披露する等、和気藹々とした、楽しいひと時となりました。（浅沼）



<行事報告>

### マザーテレサ帰天15年記念行事（9月22日）

マザーテレサが帰天されたのは、1997年、その2年前におこった阪神淡路大震災の記憶が、まだ生々しい頃でした。早いものでそれから15年が経ちました。でもそんな年月が流れたとは思えないほど、マザーの存在は、人々の心の中に、まだしっかりと生き続けているように思います。

9月22日（土）教会の主聖堂において「マザーテレサ帰天15年記念行事」が開催されました。日本マザーテレサ共労者会の（現在は解散しています）設立に関わり、直接マザーとの交流のあった、姫路『淳心の家』のボーガルト神父様のお話と、片柳神父様による感謝のミサ、そして、簡単な懇親会と言う、簡素な催しでした。いつも、必要以上の贅沢をいとわれた、マザーのお心に沿ったものです。

テーマは、マザーがよくお話しになったお言葉の一つ『小さなことに、大きな愛を』でした。ボーガルト神父様のお話も、マザーのお言葉を引用しつつ、祈りの力によって強められながら、身近な所で、大きな愛を持って奉仕できるはずだということだったと思います。インドのコルカタまで出かけなくても、近くに、隠れたコルカタがある。毎日何か、神様のため、人々のため、すばらしいことができますように、という祈りは、毎日の生活を力づけるものではないでしょうか。心にしみるお話でした。

当日まで、どれくらいの方に来ていただけるか、全く分からなかったのですが、ふたを開けてみると、西の方、東の方、遠くは四国から合わせて百人あまりの出席者がありました。マザーの遺徳の偉大さを感じました。懇親会も、和やかな雰囲気でした。組織としての共労者会はなくなりましたが、小さいグループは、ここ六甲を始め、所々で、続いています。新しく始められたグループもあり、マザーの生き方に学び、ついて行こうという動きは、きっとずーっと続いて行くのだらうと思います。

半日の決して大きいとは言えない行事でしたけれど、参加者の心が一つになった、有意義な催しだったと思います。（阿部）



## 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

### 📖 三日月会

10月15日(月)14:00 例会

### 📖 教会学校

10月20日(土)～21日(日) 錬成会

### 📖 宣教部

10月27日(土)10:00 部会

### 📖 施設管理部

10月28日(日) 部会

### 📖 社会活動部

11月2日(金) 連絡会 10時ミサ後  
チャリティーバザーの最終確認です。  
出店されるグループは必ずご出席下さい。

## 《おしらせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

### ★ 社会活動部 ★

10月3日(水) 10:00～ ♪手芸の集い 第1・2会議室 どなたでも参加できます。

10月13日(土) 10:00 ♪炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達のお話し相手だけでもOK。

10月21日(日) 10時ミサ後 ♪ふれあい広場 お弁当・手芸品等の販売

10月22日(月) 9:30 ♪ともしび ケーキづくり (イグナチオ・お台所)

### ★ 養成部 ★

#### 祈りの道場

日 時：2012年11月3日(土・祝) 10:00～15:00 15:00よりミサ

指 導：英 隆一朗神父

会 場：カトリック六甲教会 主聖堂

会 費：600円 (昼食代)

### ★ 典礼部 ★

「カトリック六甲教会聖歌隊」で歌ってみませんか？

日曜日の朝9時から30分間、その日のミサの聖歌を練習しています。いつでも一緒にどうぞお歌い下さい。第3日曜日の11時からと第1土曜日の10時から定期練習です。結婚式のお祝いの聖歌や讃美歌。またクリスマス、ご復活など特別の祝日のための歌の練習をします。ご葬儀のときにも聖歌奉仕します。

練習場所は主聖堂が中心ですが、教会内のホールや会議室のときもあります。指揮者は三浦優子さん、ほか歌唱リーダーが5人います。男声とくに比較的若い世代の参加を期待しています。会費などは不要です。

お問い合わせは迄まで。





## みんなの広場

### 教会とは？

ヨハネ 三好 榮之助

曰く評議会、曰く地区、曰く部会、曰く？。

9月教会報コリント神父の巻頭言が指摘したこと、教会とは？ 小教区とは？ 信徒とは？  
信仰は信徒にとって日常であり、教会はその中心であるはずだが、信徒が教会に来て居場所がない。地区を云々しても主日のミサでそれがどこの誰かもわからない。

教会報もカトリック新聞も教会の事業、イベントの自画自賛記事で埋まっている。

一步外に出れば信徒が住んでいる社会はどうなっているのか。その中で教会は？

ミサは「行きましょう」で終わる。「帰りましょう」ではない。



## 感謝

長い休暇を終え9月10日夜、六甲に戻りました。休暇中、主任代行を勤めてくれた片柳神父をはじめコリント神父、そして信徒の皆さまに大変お世話になりましたこと、また沢山のお祈りを下さったことにお礼申し上げます。

さてこの二ヶ月間、只旅を続けるという過ごし方では、無味乾燥、修道司祭として何かをこの旅からの思いから、旅立つ前に“二ヶ月間の日々の霊操”をしようと計画していました。ところが出発時には、すっかりそのことを忘れ普通の旅人になっていました。

幸い出発から4日目、第三修練地アイルランドに到着した時、当初の決意を思い出し霊操の旅が始まりました。そして最終地アメリカまで祈り続けた結果、これまで経験したことの無い充実した二ヶ月間を過ごしました。この実りをこれから少しずつ皆様と分かち合える機会を作っていきたいと願っています。

感謝のうちに

(主任司祭 松村信也)

教会報 11月の発行は10月28日(日)です。 編集会議 10月21日(日)です。 記事原稿は、10月14日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) <a href="http://www.rokko-catholic.jp/">http://www.rokko-catholic.jp/</a>	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	〒657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
	F A X	0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3
	発行責任者	松 村 信 也
	編 集	広 報 部